

# 赤尾の “現場で勝てる” Visual Basic

第9回

# 6.0

## イメージビューワで練習する応用技 その2

赤尾 猫太 AKAO, Nekota

「画像の表示」「印刷」「モーダル表示／モードレス表示」  
「ドラッグ&ドロップ処理」



### はじめに

さて、さっそくですがForm1の続きを作り始めましょう。今回はメニューの実装を進めてゆきます。



### 【表示】メニュー

まずは【表示】メニューの下の【フォームサイズに合わせる】サブメニューと【画像サイズに合わせる】サブメニューからです(図1、リスト1)。この2つのメニューは、いずれかひとつのチェックがオン(Checked = True)になるもので、両方のチェックが同時にオンになることはありません。実際の処理としては、イメージコントロールもしくはピクチャーボックスコントロールが表示状

態ならば非表示状態に、非表示状態ならば表示状態にというように、現在の状態とは逆の状態に切り替える処理を行なっています(リスト1-①)。

「フォームサイズに合わせる」場合は、イメージコントロールのStretchプロパティの効果を利用し、「画像サイズに合わせる」場合はピクチャーボックスコントロールのAutoSizeプロパティの効果を利用します。

ちなみに画像サイズに合わせるといっても、フォームの大きさを画像サイズに合わせて表示するわけではありません。フォーム上に貼り付けたピクチャーボックスコントロールの大きさが画像サイズに合っているだけです。画像はフォームから切れて表示されます。たとえば、この部分にリスト2のようなコードを書くことでフォームの大きさを画像サイズに合わせることも可能ですが、画像が大きい場合にはディスプレイ画面よりもフォームが大きくなってしまいますので、今回はあえてこういったコードは含めていません。したがって本来であれば、この「画像に合わせる」サブメニューは「等倍表示」と

#### 本稿で前提となるもの

OS Windows 98以上

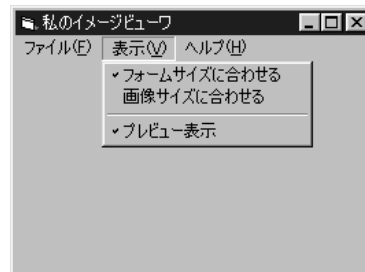
開発環境 Visual Basic 5.0/6.0

初級 中級 上級

この記事で解説したサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DMAG¥AKAOフォルダ以下に収録しています

¥VIEWER2：今回作成したイメージビューワ

図1：「表示」メニュー



リスト1：フォームサイズ/画像サイズに合わせる

<pre>Private Sub mnuPicture_Click()     ' Pictureを使った表示の状態に切り替える      ' 設定を保存     SaveSetting "MyViewer", "Setting", "Target", "Picture" ②      ' Picture関連を有効とする     mnuPicture.Checked = True     Picture1.Visible = True ①      ' Image関連を無効とする     mnuImage.Checked = False     Image1.Visible = False  End Sub</pre>	<pre>Private Sub mnuImage_Click()     ' Imageを使った表示の状態に切り替える      ' 設定を保存     SaveSetting "MyViewer", "Setting", "Target", "Image" ②      ' Image関連を有効とする     mnuImage.Checked = True     Image1.Visible = True     Call Form_Resize ①      ' Picture関連を無効とする     mnuPicture.Checked = False     Picture1.Visible = False  End Sub</pre>
---	--

いう名称のほうが正しいのかもしれませんがね。

大きい画像をスクロールして表示するには、Visual Basic (以下VB) に用意されている標準コントロールのプロパティ設定だけではできませんので、そのような処理は今後説明することになります。

また、今使った設定を次に起動したときにも有効にするために、レジストリに設定を保存しています (リスト1-②)。

### ■【プレビュー表示】サブメニュー

続いて、[表示] - [プレビュー表示] サブメニューです。これは先ほどの2つのサブメニューとは違い、このメニューがクリックされるたびに単純にCheckedプロパティがオンまたはオフになる仕様ですので、それに合わせたCheckedプロパティの処理と、その状態をレジストリに保存しておく処理を実装します。

ここでのCheckedプロパティは「使用者に設定を見せる」ためと「プログラムが処理時にプレビューを出すかどうかの判断をする変数のようなものとして扱う」ためのものなので、前述の処理以外は実装しません。

ちなみに、VBのピクチャーボックスコントロールやイメージコントロールは画像読み込みに相当な時間がかかるので、不必要にプレビューを行なうと、使い勝手が悪く遅いプログラムになります。アプリケーションにプレビュー機能を実装する際には、このように使用者の目的に合わせて使用できるように、プレビュー表示のオン/

リスト2：実際の画像サイズにフォームサイズを合わせる

```
Dim x As Integer
Dim y As Integer

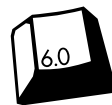
' ボーダーなどのサイズ取得
x = Me.Width - Me.ScaleWidth
y = Me.Height - Me.ScaleHeight

' ピクチャーのサイズに合わせる
Me.Width = x + Picture1.Width
Me.Height = y + Picture1.Height
```

リスト3：「プレビュー表示」メニュー

```
Private Sub mnuPreview_Click()
    ' プレビュー表示の使用をチェックで示す
    If mnuPreview.Checked = True Then
        mnuPreview.Checked = False
        ' 設定を保存
        SaveSetting "MyViewer", "Setting", "Preview", "Off"
    Else
        mnuPreview.Checked = True
        ' 設定を保存
        SaveSetting "MyViewer", "Setting", "Preview", "On"
    End If
End Sub
```

オフを選択できるような処理も組み込んでおきましょう。



### 【ファイル】 - 【印刷】サブメニュー

続いて、[ファイル] メニューの下にある [印刷] サブ

